

# 1年学年通信

第11号

2020.11.9



## 激動

いのち  
～大きな壁を乗り越えて息吹を刻む～



取組日数が土日祝日を抜き、本番当日を入れて7日間でした。

感染症予防対策のもと例年より縮小された文化発表会でしたが、49期生のエネルギーを強く感じることができた7日間でした。

1年生らしく、元気いっぱいとててもかわいいスライド劇『豚のPちゃん』と20人の子どもたち～「いただきますってなに？」～を創り出すことができました。

細かい作業の連続に苛立ち、投げ出したくなつたであろう 《ステンドグラス班》  
それぞれの活動場所でシャッターチャンスをねらい続けた 《映像・エンドロール班》  
タイミングのずれに最も気を遣い、本番当日最も緊張した 《音響班》と《照明班》  
自分を捨て、難しい注文にも泣き言を言わずいろいろな表情で撮影に応じた 《役者班》  
声の大小やイントネーションにも気を使い、役になりきるため練習を続けた 《声優班》

今年の生徒会キャッチフレーズは「団結～気概を胸に共に学び共に歩む～」です。

団結と気概。気概とは、困難にくじけない強い意志のことでしたね。

いろいろと制約のある中で、6月から継続的に学んできた「いのちの学習」。

そのまとめとして“学年全体が一つのテーマに向かって協力して活動した文化発表会の取り組み”これが生徒会のキャッチフレーズそのものでした。

体育大会で得た感動の共有を再確認できた、とても濃い7日間でした。

# 感動の共有

## 文化発表会感想文より

それぞれの班が重要でどこかが欠けているとこの作品はできなかつたと思います。みんなが協力して文化発表会ができてすごく良かったです。

震災で身近な人がたくさん亡くなつたということを改めて知り、その人たちのためにしっかり生きようと思いました。

展示では命をテーマにデザインやフレーズを考えました。作っているときも、その言葉の意味についてよく考えながら作れたのでよかったです。

来年は今年のスライド劇よりもさらに何倍も本気ですごい劇をしたい。



先生が色々と任せてくれたので、みんなを引っ張る役割ができました。自分のすべきことが出来て満足です。

3年生の劇では、それぞれの感情がとても強く伝わってきて、感動しました。昔に起きた悲劇を改めて深く考えることができました。

自分は役者だったので、ワンショットごとにジェスチャーをつけて、声優さんがしゃべりやすいように工夫した。

真剣な顔をして演じている2・3年生の劇を見ていると、自然と応援したくなりました。

ステンドグラスを見た人に「命のつながり」が届くように、気持ちを込めて作りました。

完璧じゃないし、失敗したことも間違えたこともあったけど、それを笑う人もいない、良い文化発表会でした。

来年、先輩たちのように人の心に残る文化発表会にできるように、今年以上に頑張りたい。

私の何気ない日常が、戦争中や被災者の願った「幸せ」などと感じることが出来ました。

そんな何げない日常や平和を大切にしていく必要があるのだと思いました。

## 【今後の予定】

～11月～

13日(金) 視聴覚教育総合全国大会  
1～3限 授業  
4限 給食・清掃 12:30 下校  
1～3は5限公開授業  
20日(金) 校外学習  
繁昌亭にて落語鑑賞  
その後、班別市内巡り  
21日(土) 助産師による いのちの講和

～12月～

17日(木) 冬季到達度テスト  
(4.5.6限)  
18日(金) 冬季到達度テスト  
(5.6限)  
25日(金) 冬季休業前諸注意  
12/26(土)～1/6(火) 冬季休業  
1/7(水) 後期後半開始

